

クビアカツヤカミキリ防除 樹幹散布方法

マツグリーン液剤2を使った樹幹散布の作業方法

実施する時は・・・

降雨の無い日に、実施する

散布日は、できるだけ、樹幹散布後2～3日、降雨の無い日を設定する

薬液の希釈倍数は、100～200倍

幹と太い枝、浮き根に散布

散布機のノズルの先は、シャワー状に調節する

容器に記載されている安全使用上の注意事項などをよく読んで正しく使用する

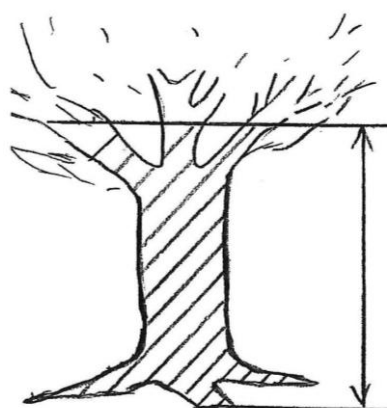


乾いた樹皮は、水分をはじくので、最初に軽く吹きつけて濡らし、樹皮が濡れたら、たっぷり樹幹に散布する

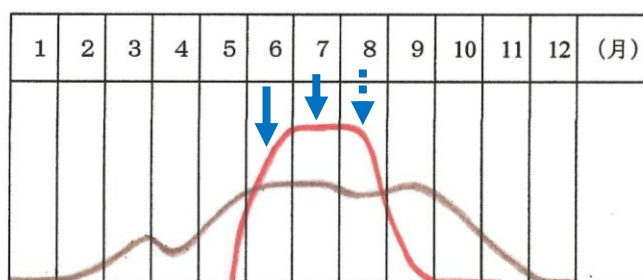
根元まで薬液が流れ落ちるまで、たっぷり散布すると、樹皮にしっかり浸透します

散布量の目安は、樹木1本当り、3～5L

散布回数 2回(または3回) 6月上旬・7月中旬・(8月中旬)



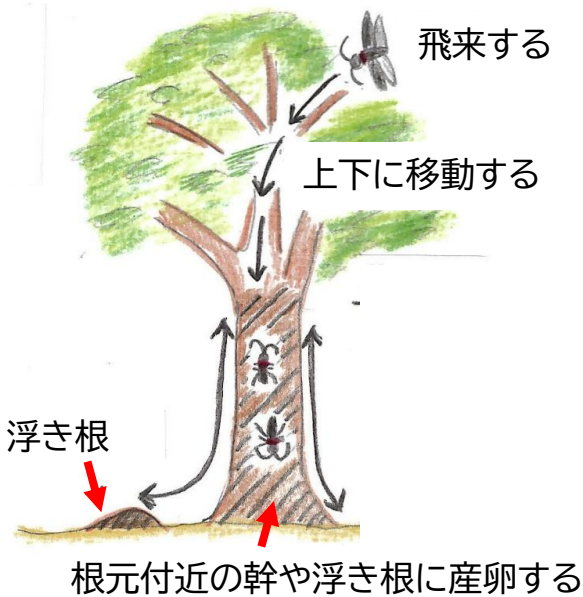
木くずの量
成虫の発生量



↓ マツグリーン液剤2の樹幹散布防除適期

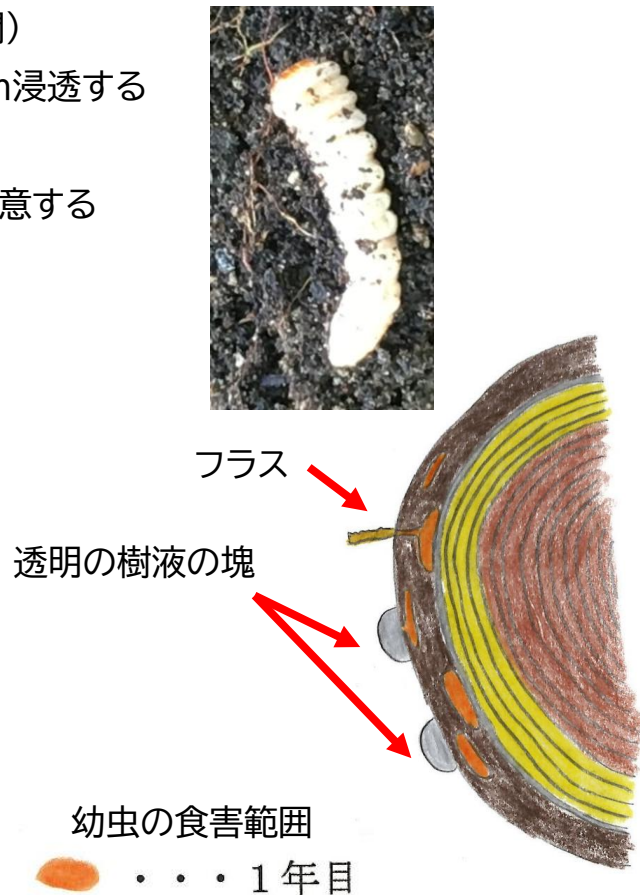
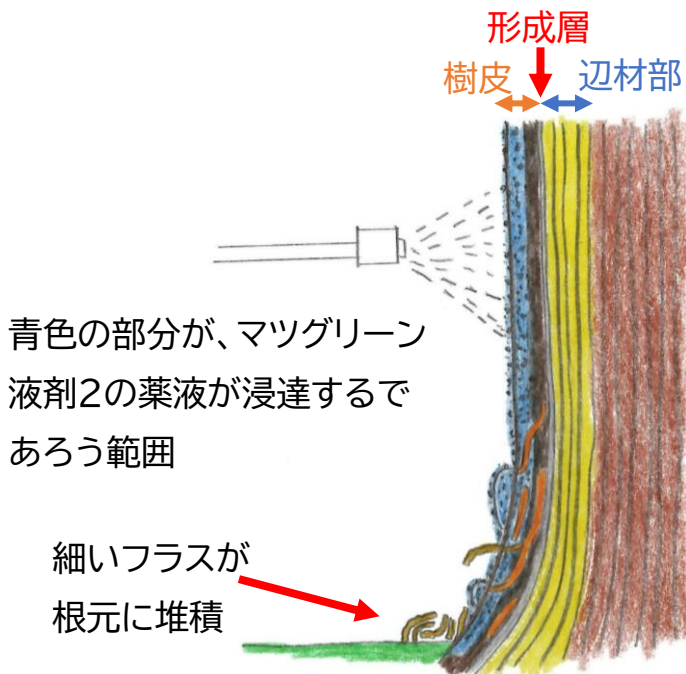
特定外来生物クビアカツヤカミキリの特徴

成虫: 6月～10月まで発生する 体長5cm前後 首が赤く全体が黒く光沢がある
独特な臭いを出す 約2カ月生存する モモ、ソメイヨシノ、ウメに被害がある
幼虫: 約24カ月樹体内を食害する



樹幹散布の効果

樹皮及び師部を食害する橙色の部分の1年目の幼虫を駆除することができる
薬効期間中は、成虫を忌避させる効果と産卵防止、羽化した成虫の脱出失敗の効果がある
薬効持続期間は、約14日間(場内試験は56日間)
しっかり散布すると、薬液は樹皮表面から約1cm浸透する
散布後の臭いが無い
葉にかかると、茶色く枯れる薬害があるので、注意する



被害のある部分だけのピンポイント散布

薬液の希釈倍数20～50倍で、フラス、木くず、樹液の出ている部分があれば、その周辺に、薬液が樹皮の表面を流れるくらい、たっぷり散布して、浸透させる

散布後、フラス、木くずの新たな排出量は、約3か月かけて徐々に減少する

フラス、木くずの新たな排出量に変化がなく多く排出されているようであれば、2回目のピンポイント散布を実施する

散布時期：通年可能



マツグリーン液剤2は、成分がアセタミプリド。普通物で登録されており、一般に販売、安全に使用でき、揮発性が無く、浸達性に優れているのが特徴。サクラ類については、希釈倍数200倍以下の濃さで散布した場合、葉にかかると茶色く枯れる薬害がでる。使用できる樹種が限定されているので、ウメやモモに使用できない。

同じアセタミプリド成分の薬剤にモスピラン顆粒水溶剤があるが、劇物に指定されているので取り扱いに注意が必要。浸透移行性に優れているのが特徴。樹皮の厚さが薄いウメやモモに防除効果が期待できると思われる。

アセタミプリドは、クビアカツヤカミキリの成虫に対して、殺虫、産卵抑制、忌避させる効果がある。薬剤が摂食され体内に取り込まれると、水分補給や産卵行為をしなくなり迷走状態で約3日後に死亡に至る。幼虫に対しては、薬液が浸透した材質を幼虫が食害することで、黒く変色して干からびた状態になり死亡に至ると考えられる。

制作・編集 一般財団法人富田林市公園緑化協会

土居常隆(樹木医) 澤田昌紀(樹木医) 山本美加(樹木医)

令和7年5月 発行